

レイクサイドだより

第58号

(令和4年2月)

発行所

介護老人保健施設 レイクサイド木場

石川県小松市三谷町そ80番地

TEL 0761(23)1800

FAX 0761(23)7280



2022年を迎えて

～施設長より、ご挨拶～

皆さま、新年あけましておめでとうございます。わたくし事ですが、11年ぶりの石川県は“寒い！”です。年末年始、雪に見舞われて凍えていました。

昨年4月に赴任して9か月になりますが、様々な出会い、別れがありました。新しく利用を始められた方、お亡くなりになられた方……。人生、出会いと別れの繰り返しです。その中には思い出に残る出会いや別れもあります。私が2018年にフランス、スペイン、ポルトガルを歩いた際、巡礼路の目的地、サンチアゴ大聖堂に臨む当日の早朝(2018.6.1)、ある女性と出会いました。丁度、私が道に迷いかけた時でした。あたかも私が来るのを知っていたかのように佇んでいました(私の勝手な思い込みですが)。韓国で会社を経営しているとの事でした。歩き旅では殆どの旅人とは“オラ！ ブエン・カミーノ！”と挨拶だけですれ違います。しかし、何故か彼女は歩調を合わせてくれて、拙い私の英語に耳を傾けてくれました。

朝6時から昼の1時まで一緒に行動し、巡礼証明書を貰い、大聖堂でのミサに参加しましたが、名前も聞かずじまいでした。今でもふと思い出します。

“繋がり”は国籍、言葉の壁を越えて感じるものです。かたや、何日も一緒に歩いて長い時間語り合っても、それ程思い出さない人も居ます。

当施設は2002年4月1日開設で20年の歴史を刻もうとしております。

その間、沢山の利用者様、職員の出入りがありました。“レイクサイド木場”という場を介して、出会いと別れが繰り返されています。時に楽しく語り、時に思いが伝わらず気まずい事もあったでしょう。これら全てがレイクサイド木場特有の雰囲気を作り上げていくのだと思います。レイクサイド木場という建物は生き物のように、これからも皆様と我々スタッフとの“出会いと別れ”を咀嚼し成長していくでしょう。良い出会い、語らいを重ねると、却って別れは辛いものになります。それでも“良い出会い”が沢山あるように我々スタッフは励みます。引き続き皆様のご利用をお願いしたく存じます。



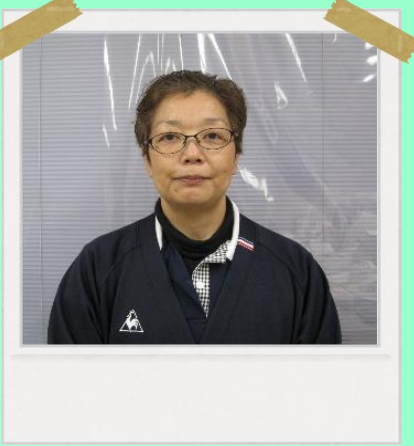
利用者様や家族様、関係各所の皆様、地域の皆様には、日頃より、新型コロナウイルス感染症対策へのご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染流行が始まって、2年以上が経ちました。昨年はデルタ株が猛威を振るい、ようやく下火になったところで、新しい変異株の流行、拡大が危惧されています。それに伴い、さらなる感染対策を求められる可能性もあり、コロナ禍が長引き、皆様にも大きなご負担をお願いすることになりますが、今後も感染対策へのご協力、ご理解を改めてお願い申し上げます。



職員紹介

- ①氏名
- ②部署
- ③趣味
- ④抱負



- ①海尾 則子
(かいお のりこ)
- ②介護部
- ③ドライブ・旅行・温泉巡り
- ④健康で元気な人生を全うできますように。
皆様とも笑顔で対応できますように
願います！



- ①藤田 真穂
(ふじた まほ)
- ②機能訓練部
- ③温泉巡り
- ④以前は病院で勤務していました。
ご利用様が笑顔で過ごせるよう、
介護保険について学びその方に合った
リハビリやサービスを提供できるよう
頑張ります。



介護相談隊の活動報告



介護相談隊の活動として、本江町からのご依頼を頂き、骨密度測定及び運動のアドバイスに行っていました。骨を丈夫にするには、カルシウムを毎日の食事に取り入れると共にビタミンDを含む食品と一緒に摂ると吸収率が高まります。また、ビタミンDは紫外線を浴びることで体内でも生成されるので、日光浴も有効です。骨の強さを保つためには筋力も必要となるため、たんぱく質もバランス良く摂りながら、適度な運動をすることも大切です。簡易的な検査ではありますが、自身の骨密度を知り、骨粗鬆症等の予防につなげていただければと思います。





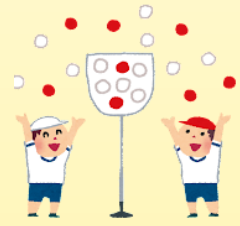
運動会



物送りゲーム
みんなでがんばりました！



応援団長私が
タスキをかけましょう！



紅白玉入れ
準備オッケー！
がんばるぞ～！

車いすリレー
「ぜったい」勝つよ！



二人三脚
息ピッタリで勝ちました！
うれしい～！



クリスマス会



レクリエーションでは
輪投げを楽しみました☆彡

クリスマスツリーと一緒に写真を撮ったり、サンタの帽子を被ってクリスマス気分を味わいました♪

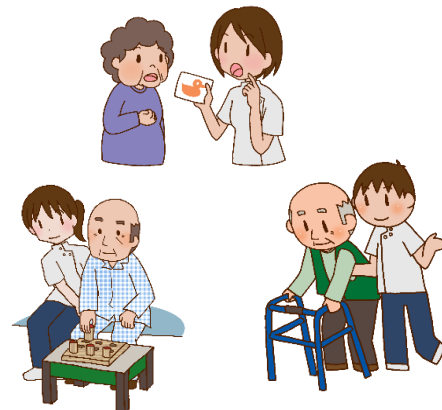




リハビリテーションについて

レイクサイド木場では、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士が中心となり、医師や介護職、看護職が連携して、利用者様一人一人に応じた「機能の維持回復訓練」や「日常生活動作訓練」といったリハビリテーションを実施しております。（下記の写真は、当所でのリハビリ時の様子です。）

当施設では様々なマシン、設備等を活用しながらリハビリテーションを行っていますが、これだけがリハビリテーションではありません。起きている時間を増やす、立ち座りの回数を増やす、食事や着替え、入浴、トイレといった生活動作において、自分でできることは自分で行うこともリハビリテーションの一環です。無理のない範囲で、普段の生活の中で体を動かす機会を増やして、日常生活の中でリハビリテーションに取り組んでみてください。



通所リハビリでは、リハビリテーション会議（※加算算定者のみ）を適時に行いながら、リハビリテーションの目標や内容の話し合いを行っています。

